

部会長名 福智町立方城中学校 校長 久富 靖剛
実践者名 川崎町立川崎中学校 教諭 花崎 智晴

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導の研究
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な要請と学習指導要領の動向から

学習指導要領における美術の社会的背景の変化は、大きく三点あげられる。

第一にグローバル化の進展により、世界の多様な文化や価値観に触れ、国際的な視点を持つことが求められるようになった。このことにより、美術作品を通して、異文化理解を深め、国際社会に貢献できる人材育成が重要になる。第二に、情報技術の高度化にともない、デジタル技術を活用した表現活動が広がり、新しい表現方法や鑑賞方法が生まれて、ICTを活用した授業や、デジタルアートの学習も必要になると思われる。第三に、持続可能な社会の実現の気運から環境問題や社会問題を美術を通して考え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人材育成が求められるようになり、環境問題をテーマにした作品制作や、地域資源を活用した作品制作の必要性などが考えられる。これらの変化は、美術教育において、従来の知識伝達型から、より創造性や問題解決能力を重視する教育へと転換を促している。また、多様な価値観を尊重し、他者と協働して作品を創り出す活動も重要視されている。

平成29年告示の学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むことをめざして、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫を引き出すために、すべての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」、学びに向かう力、人間性の三つの柱で再整理された。また、「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施のあり方（カリキュラムマネジメント）や子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示され、現在、各学校での授業改善がすすめられている。

美術科においても以下のような改訂が行われた。教科の目標では、美術は何を学ぶ教科なのかということが明示され、生活や社会のなかの美術や美術文化などと豊かに関わる資質・能力の育成がより一層重視された。また、目標が三つの柱、①造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの（知識・技能）、②表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの（思考力・判断力・表現力）、③学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの（学びに向かう力・人間性等）で整理された。

これらのことを踏まえて美術科では、次の視点を意識した授業改善を図ることが重要と

なる。造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させること（深い学び）。美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めること（主体的な学び）。自己との対話を深めることや〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べあったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合ったりすること（対話的な学び）。そうした授業改善が美術科において育成する資質・能力の一層の深まりにつながると考える。

（２）生徒の実態から

美術科の学習においては生徒が主体的な創作活動を通して心を生き活きと働かせ、自己実現を果たしていくことが大切である。また、様々な形や色彩などの造形と、創造や心、精神、感情などの心の働きとが造形の要素を介して行き来しながら深められる、造形的な視点を持つことで、漫然とみているだけでは気付かなかった身の回りの形や色彩などの働きに気付いたり、良さや美しさなどを感じ取ったりすることができるようになる。そのような視点で生徒を捉えてみると、現状十分に満足できる状態とは言いがたい。作品制作に楽しさを見いだす生徒もいるが、制作作業自体を衝動的に進めることはできても、表現に行き詰まったり、作品制作の計画段階で発想や構想を練ったりすることに苦手意識を持っていて思考停止状態に陥る生徒も見られる。この傾向は学年が進むにつれて強くなっているように感じられ、「思っていた物と完成作品とのイメージが違う」「自分には制作活動は向いていない」等、美術の能力・技能の拙さや自己肯定感の低さが感じられる生徒が見受けられる。作品制作に対して個人差が大きく、学力・意欲、ともに二分化される傾向にある。作業を中心とする表現活動への意欲・関心は高いが、到達度としては6割、7割程度の段階で満足してしまい、さらなる上の表現に行き着けない、気づけない場合もある。また、表現や発信には積極的であるが、見たり、聞いたりと言った鑑賞活動に関しては消極的であったり、退屈そうにしていることが多く、他者の作品にあまり目を向けず、新たな考え方や表現に気付く機会を逸していることも多い。どの活動においても主体性や学びの深まりが得られていない傾向がある。

以上のことから、主体性や学びの深まりに留意して、対話的な学びを指導計画に位置づけ、表現と鑑賞の相互の関連を図り、総合的に働かせることで学習の一層の深まりが得られるであろうし、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会を心豊かに生きていく生徒に求められる資質・能力を育成する上で意義深いと考える。

3 主題の意味

（１）思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導とは

美術科における「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力は、表現学習を通して育成される「発想や構想に関する資質・能力」と、鑑賞の学習を通して育成される「鑑賞に関する資質・能力」の二つの要素によって高まっていくものである。

表現においては、主題を生み出すことを重視して豊かに発想し、創造的な表現の構想を考察し、さらによい表現を求めて練り上げていくこと、鑑賞においては、造形的な良さや

美しさなどを感じ取ったり、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの、見方や感じ方を深め、育成することが、美術科における思考力・判断力・表現力を高めることになるであろう。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは

「主体的な学び」の実現を図るには、まず生徒が、育む資質・能力を正しく理解できるようにねらいを明示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにする。その上で、生徒自身が自らの変容を自覚できるような振り返りの機会を設定することが大切である。例えば、主題に関するアイデアを考えると、まとめていく思考の過程が確認できるようなワークシートを用意し、自分なりの主題の意味や、価値を具現化していく過程が認識できる自己評価の機会を指導計画に位置づけていくことで主体的に学びに向かう力は高まると考えられる。

「対話的な学び」の実現を図るためには、言語活動を通して、生徒にどのような力を身につけさせるのか、活動のねらいを明確にすることが重要になる。目的や視点、条件などを示し、共有しながら対象・事象をとらえて意見を述べ合ったり、アイデアを作り上げたりしていくことが、学びを深める上で大切になる。グループでの話し合いとともに自己との対話を深めることも同時に重要な要素である。最初に個人で価値意識を持ち、他者との会話を通して、お互いの見方や感じ方、考えが交流され、新しい見方に気づいたり、価値を生み出したりすることが可能になる。

また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びにおいても相互に関連するものであり、主題の追求過程や、表現の構想段階、創意工夫しながら技能を働かせる場面や鑑賞など様々な過程において、生徒が自分独自の意味や価値を見だし表現につなげていくことが重要になる。

したがって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、美術の学びを質的に深めると同時に、学びを生き方や人生とつなげていくものと捉えて、「造形的な見方・考え方」を働かせた生徒の主体的な学びを保障しつつ表現と鑑賞を相互に関連させた授業展開の工夫を行うことである。

4 研究の目標

美術科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることについて究明する。

5 研究仮説

美術科の表現及び鑑賞の学習活動において、学習意欲を引き出すための振り返りの場面や、自他の制作の意図や作品の良さにふれる学び合いや共同制作などの活動を設定すれば生徒の造形的な見方や感じ方、考え方を働かすことができ、思考力・判断力・表現力が高まるであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材「モダンテクニックを使い、心の情景をあらわそう」

(モダンテクニックを用いたコラージュ作品共同制作)

(2) 題材の目標及び指導計画

題 材	モダンテクニック	総時数	9 時間	7 月～9 月
題材 の目標	<p>○モダンテクニックの造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。(知識及び技能)</p> <p>○モダンテクニックの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫について考えるとともに、主題を生み出し、豊かに発想し、構想を練ったり美術に対する見方や感じ方を広げることができるようにする。(思考力・判断力・表現力)</p> <p>○楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。(主体的に学習に向かう力)</p>			
時数	主な学習活動・内容	教師の手立て	評価基準	
1	モダンテクニック実技作品 貼り付け用の冊子づくり ・3つのモダンテクニックの手順と使う道具を記入し3枚綴りの冊子を制作する。	○モダンテクニックの学習に取り組むことを伝え、技法の内容について理解できるよう説明する。	■テクニック名 (カタカナ・和名) 道具名 制作手順を見やすくレイアウトできる。【知】	
2 ～ 3	モダンテクニックマニュアル制作 (スケッチブックに) ・使用する道具、手順の確認が視覚的にわかりやすいマニュアルを制作する。	○記入事項を板書、電子黒板で明示し、記入漏れがないように配慮する。	■使用する道具、手順の確認が視覚的にわかりやすいマニュアルを丁寧に制作できる。 【知・技】	
4	(実技1) フロッタージュ (こすりだし) 実技、台紙に貼り付け。作業の感想、作品から受ける印象を記入。	○道具の準備。鉛筆の使い方に留意させる。 ○作品貼り付け位置の確認。 ○感想、印象は6つずつ以上は記入させる。	■実技の本質を理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。【知・技】	
5	(実技2) ドリッピング (吹き流し) 実技、台紙に貼り付け。作業の感想、作品から受ける印象を記入。	○道具の準備。ストローを吹くときの酸欠・頭痛に注意させる。 ○作品貼り付け位置の確認。 ○感想、印象は6つずつ以上は記入させる。	■実技の本質を理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。【知・技】	
6	(実技3) デカルコマニー (合わせ絵) 実技、台紙に貼り付け。作業の感想、作品から受ける印象を記入。	○道具の準備。絵の具のはみ出、汚れに注意させる。 ○作品貼り付け位置の確認。 ○感想、印象は6つずつ以上は記入させる。	■実技の本質を理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。【知・技】	

7	(実技4) コラージュ (はり絵) 実技、テーマに沿って共同制作。 本時 今までのモダンテクニック作品を使用して制作を行う。	○班を事前に決めておく。 ○テーマは「希望」「絶望」の二種類。班毎にくじで決定。 ○制作に向け、意図が伝わる組み合わせを十分に論議させる。	■テーマに沿った作品を制作し、多様な見方・感じ方で作品をとらえることができる。【知・技】 ■楽しく活動に取り組み創造活動の喜びを味わうことができる。 【主】
8	実技4で制作した互いの作品を鑑賞する。工夫したところ、テーマを伝えるために意図した仕掛けの交流を行う。	○学習支援ソフトに提出した作品をお互いに鑑賞し、工夫点感じたことをワークシートに記入させた後、交流させる。	■互いの作品を鑑賞し、作品に対する見方や感じ方を広げることができる。【思・判・表】

7 指導の実際

- (1) 本時 令和7年10月30日(火) 第3校時 2年1組教室にて
- (2) 主眼 テーマ(主題)に沿ったコラージュ作品を共同制作することを通して多様な見方や感じ方で作品をとらえることができる。
- (3) 準備 はさみ・のり・新聞紙・モダンテクニックの冊子・色紙・余ったモダンテクニックの作品・ワークシート・タブレット
- (4) 展開

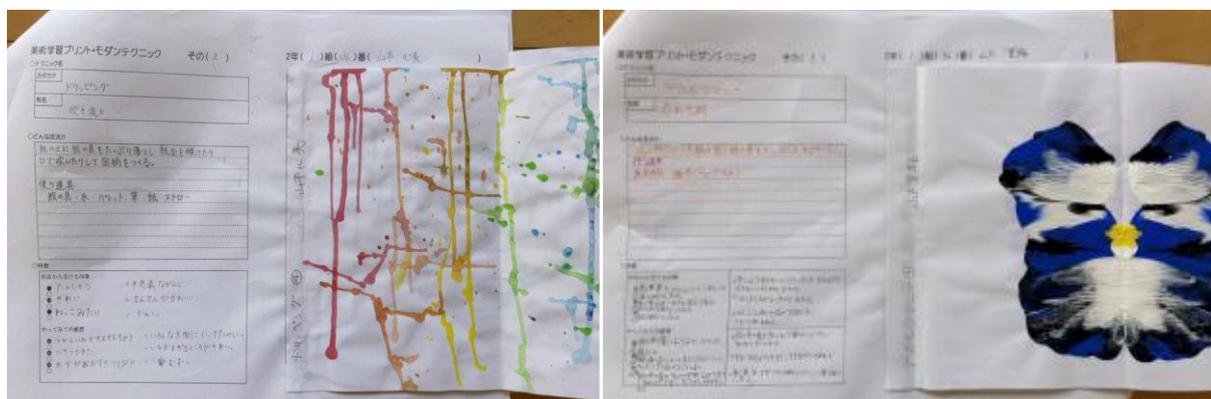
	学習活動・内容	指導上の手立て・配慮事項・評価	形態	配時
導 入	1.今まで行ったモダンテクニックを確認する。 (1)1フロッタージュ2ドリップング3デカル コマニー (2)本時のめあてと見通しを確認する。	・既習事項を振り返るために、プリントその1～3までを確認し、それぞれの「作品から受ける印象(造形の要素の働きやイメージ)」に着目させる。 ・見通しを持たせるために、本時の流れを描いておく。	個	3
	めあて テーマに沿ったコラージュ作品を制作して、工夫点を書き出そう。		全	1
展 開	2.制作 (1)班で「希望」または「絶望」の2択の中からテーマ(主題)を選択する。 (2)作業プリントその1からその3までのの中からテーマ(主題)にふさわしい作品を選択する。 (3)造形的な特徴などに注目し、話し合いながらコラージュ作品を制作する。	・テーマ(主題)に相応しい実技作品を選択するために自分の作品を切り離して班に提供する。 ※班に提供する作品はその1からその3の中からバラバラでも同じ技法統一でもかまわない。 ・色、形、質感などに着目させて選択できるように学習プリントの②を提示する。 ・以前に自分で書き込んだ「作品から受ける印象」を見直し、テーマ(主題)に近い事を書いている作品を探す。	全 個	2 5 25

		<ul style="list-style-type: none"> ・全員の作品を組ませていくために、個々が素材を提供した意図や理由を発表する場を設定する。 ・楽しく活動に取り組み創造活動の喜びを味わうことができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>		
終末	3.まとめと振り返り (1) プリントに作品制作の感想、自分たちの作品から受ける印象を書き、班で交流する。 (2) 班ごとに工夫したことなどを発表し、全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が本時の学習を振り返るために、制作した作品を鑑賞する時間を設定する。 	個	4
	まとめ ◇作品、素材の特徴を観察し、受ける印象からテーマに沿った作品づくりができ、作品の工夫点を書き出すことができる。【知識・技能】		全	5
	(3) 作品をタブレットで撮影し、学習支援ソフトに提出。次回、鑑賞、まとめた内容を交流することを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な見方や感じ方で作品を捉え、工夫点を書き出すことができる。 	個	3
		〔色の組み合わせ、触感的（テクスチャ）、心象の表現に触れている。〕 【思考・判断・表現】（学習プリント）	全	2

8 研究のまとめ

本題材においては、モダンテクニックの技法を身につけながら、発想や構想をさらに深める学びの場面、さらにそれぞれの技法の特徴を考えながら話し合いを持ち、テーマに沿った共同制作を行う学び合いの場面を設定した。モダンテクニックの実践の際には、作品を貼り付ける冊子を作り、その作品から受ける印象や、制作する上での注意点を書き出すことでそれぞれの技法に対する特徴や、視覚的な効果の理解を深める一助とした。

モダンテクニック作品貼付プリント



本時においては選択したテーマ、「希望」または「絶望」に見合う作品を共同制作する上で、今まで個々で行ってきたモダンテクニック作品へ向きあった上で、形、色、受ける印象などをどう組み合わせればより伝わる表現になるのか、自発的に話し合う姿が見られた。さらに試行錯誤するなかで、多くの生徒が多様な考え方を働かせることができた。作品制作後の作品鑑賞や交流の様子からも、互いの考え方や、表現の工夫に関して理解を示す生徒が多く見られた。

以上の点から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることにつながったと考える。

コラージュ 共同制作作品



テーマ

「希望」



テーマ

「絶望」

9 成果と今後の課題

- ワークシートを活用した対話的な活動により、各自の思考が深まり、主題をさらに明確化できた。表現意図に応じた効果的な表現方法を模索し、制作を総合的に考えた主体的な表現活動が行われ、意欲や思考力の高まりが得られた。
- 共同制作のテーマを二つに絞ったことで制作素材の選別法や、制作方法の組み合わせ方がまとめやすくなった反面、発想の広がり幅が限定的になった。改善策として準備の時間を増やしてグループでテーマを考察・選別する行程を加えることで、発想の幅を広げることができると考える。

◎参考文献

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編

文部科学省